

第70期通常総代会 開催される

令和5年6月23日、大分市のホテル日航オアシスタワー5階孔雀の間で大分県信用組合の第70期通常総代会が開催され、県内各地の総代111名が集った。ご来賓として、大分県副知事 吉田一生様(大分県知事代理)、大分市副市長 佐藤耕三様(大分市長代理)、国立大学法人大分大学 理事 廣瀬祐宏様(大分大学学長代理)、大分県商工会連合会 会長 利光直人様をお招きし、当組合のプロモーションビデオを上映後「けんしん」の現状と各種取り組み等について吉野理事長が紹介、開会の挨拶を述べた。その後、第70期の事業報告が行われるとともに第71期事業計画等の各議案が承認された。



大分県後期高齢者医療広域連合と大分県信用組合との 包括連携協定締結・調印式

令和5年6月15日、大分県後期高齢者医療広域連合と大分県信用組合は、協力して大分県民の健康寿命延伸を図るため包括連携協定締結を行った。「けんしん」は大分県が定める「健康寿命日本一おうえん企業」第1号登録事業者として「地方創生は県民の健康から!」をコンセプトに、大分県内すべての地方公共団体ならびに大分大学や公的な医療・保健団体と連携し大分県民の健康寿命延伸に向けた活動を行っている。主な事例として①健康診査の受診率向上を目的とする特定健診を受診された方への「健康定期」の取り扱い ②その資金を活用した健康融資ファンドによる医療機関の健診機器等の精度向上などの支援を行い資金循環の仕組みを構築 ③健康セミナーの開催による県民への健康増進啓発活動などがあげられる。今後、大分県後期高齢者医療広域連合ともこれらの活動を推進し、大分県の「健康寿命日本一」を支援する。



(写真右から)
大分県後期高齢者医療広域連合
広域連合長
足立 信也 様(大分市長)

大分県信用組合 理事長
吉野 一彦

挑戦が、未来を照らす

- 1 特集/TOP INTERVIEW
有限会社 酒井商店
株式会社 川浪組
株式会社 キャリン
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS



きめ細やかで丁寧な接客で、満足度の高いサービスを提供する社長をはじめスタッフ陣



右/店内の打合せスペースで車に関するあらゆる相談につけてくれる
左/自社の認定工場での車検や、車の修理や整備、中古車探しや新車購入など車に関する幅広いニーズに応える



外観カラーもブラウンの優しい色調に一新、安岐町で70年もの長い間、地域に密着した事業を行う

車のあらゆるニーズに応え 地元で愛され続ける企業に

『酒井商店』の歩みは昭和27年、酒井隆宏現社長の祖父が戦後、満州から引き揚げたのち、いりこなどの乾物を扱う商店から始まる。祖父が裸一貫で地道に商売を続けていく中、昭和30年代の高度成長期を迎えた頃、日本では乗用車が普及し、

ガソリンの需要が高まってきた。そこで「酒井石油」と店名を改め、石油の取扱いも行うようになり、地元で数少ない給油所として利用されていた。

その後、平成元年に現社長の父が2代目として事業を継承。その際、創業時から地域の人々から親しまれていた呼び名の『酒井商店』を再び屋号にし、法人化した。

現在3代目を務める酒井氏は20歳の時、父の営む店で働き始め、平成19年に社長のバトンを渡された。しかし事業を受け継いだ時期は、すでに国の政策で石油業界は規制緩和の波が押し寄せていた時代で、ホームセンターなど、それまでガソリン業界に参入していなかった企業が続々と進出。さらにガソリンの低価格競争が激しくなったことや、大手スタンドのフルサービスからセルフサービス方式への移行などの影響を受け、個人経営の小さなガソリン

スタンドの中には、閉店を余儀なくされた店もあったという。

「うちは幸い、祖父と父の代から利用して下さるお客様が多かったこともあり、規制緩和の影響は大きく受けずに済みました。しかしこの時、これから先は単に給油事業だけやっていると、太刀打ちできなくなると感じましたし、今後は幅広く車の事業をやっていくべきと思った」と当時を振り返る。

そこで酒井氏は将来を見据え、ガソリンの給油業以外の事業にも舵をきる。まず最初の一手として始めたのが、車のコーティング事業。業界でも有名な「KeepPer」のプロショップとして、コーティング技術の認定資格を取得。車のボディが傷みにくく塗装を守るコーティングの腕前が評判を呼び、現在は約7割の利用者がリピーターという人気ぶりだ。その他にもディーラーにも引けを取らない整備体制を備えた、車検事業や車の修理、中古車、新車の販売と着実に事業を拡大してきた。さらに今年の3月には「10分100円レンタカー」も開始。大分空港にもほど近い立地を活かし、ビジネスマンや観光客をはじめ、地元の人が、気軽に車をレンタルできるサービスは、様々なシーンで利用できるのではと期待を寄せている。「ガソリンスタンドは、平成元年頃は全国で約6万店舗ほどありましたが、今では約3万店舗にまで減ってきています。厳しい状況の中だからこそ、地域の車にまつわる“よろず屋”的存在として、事業の維持に努めたい」と、酒井氏をはじめスタッフは今日も、笑顔でお客様を迎えている。

酒井隆宏代表
「ホームページやアプリも作成し、お客様が利用しやすく、ニーズに沿った企業でありたい」と酒井氏



国東同友会

[燃料・中古車販売業]

有限会社 酒井商店
代表取締役 酒井 隆宏氏

DATA

〒 国東市安岐町塩屋313-7
☎ 0978-67-1281
🕒 7:00~20:00
📅 日曜 ☑️ あり
🌐 <https://sakaishouten.com/>

川浪龍哉代表
安全かつ衛生的な職場、作業場の環境整備に努める川浪氏



久大同友会

[建設業]

株式会社 川浪組

代表取締役社長 川浪 龍哉氏

DATA

〒 日田市大字友田3725
☎ 0973-22-6145
🕒 8:00~17:00 📅 土・日曜 ☑️ あり
🌐 <http://www.kawanami-web.com/>

ンクリート製造業を営む「光岡生コン」、碎石などの運搬を行う「光岡輸送」、主に貸店舗事業を手掛ける「日田中央ジーシー」をグループ企業としている。

では同社が抱える、現代の課題は一体何なのだろう。川浪龍哉代表取締役社長に話を聞くと「他産業と比べて労働時間が長く、休日も少ない労働環境の改善を進めなければならない」と第一に職場環境の整備を挙げた。その上で「担い手の確保に努めたい」と語り、今後はより一層ICT化の推進が働き方改革の土台になっていくだろうと話した。テクノロジーの導入は生産性の向上に繋がり、大幅な時間の短縮を生む。さらに働き手が技能・経験に応じて適切に処遇されるクリーンな建設業界を目指し、それぞれが持つ資格や現場での就業履歴等を登録・蓄積し、能力評価につなげる国土交通省推進の仕組み「建設キャリアアップシステム(CCUS)」も、近い将来に導入の予定があるという。

そしてこのような公共工事の品質向上

公共土木工事を軸に 人々の生活を支え笑顔を守る

及び地域社会、環境などに配慮した業務の推進、ICTの活用といった働き方改革の推進が評価され、昨年は日田土木事務所発注の「令和2年度2災国河第798-2号河川災害復旧工事」が県土木建築部長表彰を受賞。復旧工事は多くの危険と隣り合わせの状況だが、精度の高い3D施工データを活用して作業工程を大幅に短縮するなど、社員が心に余裕を持ち安心して働ける環境の確保や、品質を追求する姿勢などが評価を受けた。「日常のあちこちに息づいている建設業の仕事は、各種の建築物の建設や土木工事を請け負うと同時に、災害時には最前線で地域社会の安全・安心を守るやりがいのある仕事です。その仕事に従事する者は、これからも長年培ってきた知恵と技術で地元の人々の暮らしを支えていくのが使命です。そのためにも今後は業界全体の課題である労働者の働き方改革や人材不足の問題解決に取り組みなければなりません。」そう語る川浪社長は業界全体の未来をも見据えていた。



豪雨被害を受けた日田市小野地区。現場調査の後、いち早く大型土嚢の設置に取り掛かる



左/ICTの導入を推進し、会社全体で業界の改革に取り組み
右/平成26年から27年にかけて行った日田玖珠広域本部分及び日田消防署庁舎建築主体工事
右下/光岡組の「入江プラント」



大分市内に2つの物流センターをもつ。写真は野津原の物流センター。ここから全国各地へ商品を発送している



2018年に旧社屋からほど近い場所に新社屋を設立。現在30代を中心としたスタッフが在籍し活躍している



上/「湯屋の手土産」。オリジナル商品の企画から製造、販売を手がけている

左/施設の利用者が心地よく過ごすためのアメニティグッズを幅広く提案する。小ロットのニーズにも柔軟に対応

若き経営者の改革と挑戦で事業が飛躍的に進化

ホテルや旅館を利用した時に感じる心地よさのポイントは様々だが、「アメニティグッズ」の良さも、その大切な要素のひとつではないだろうか。『㈱キャリン』は、全国屈指の温泉地である別府・湯布院をはじめ熊本・宮崎・鹿児島、さらに東京を中心とした関東など、1200件以上の旅館やホテル、温浴施設などを顧客にもつ、アメニティグッズの総合卸商社。取扱商品数も在庫だけで3000~4000アイテムという豊富な品揃えを誇り、業界を中心に今、注目を集める企業だ。創業は昭和58年、現会長の梅木隆一氏が設立。そしてこの春、会長の次男・梅木隆憲氏が、39歳の若さで社長に就任した。

成長著しい同社だが、振り返ると紆余曲折あった。梅木現社長は高校卒業後、ファッションスタイリストを目指し、福岡の専門学校に通っていたが、父の会社に参画し、事業を助けようと卸業界への道を歩むことを決意。しかしこの時、すぐに父の会社へは入らず、「まずはこの業界の大手で経験を積んでみたい」と、北九州市にある業界最大手の企業へ入社。約8年間、営業職をメインにアメニティグッズ業界のノウハウをみっちり学んだ。

そんな中、父の遺言をきっかけに勤めていた会社を辞め2013年、父の会社へ入社する。梅木氏が父に代わり、真っ先に行ったのは、それまでの旧態依然の会社の経営体質の見直しだった。「社内のインフラを改善しなければ、事業が回らない状

態でした。そこで顧客・販売管理も専用のソフトをつくり、徹底したIT化を図りました。また物流倉庫のシステム化や新設、社員教育、経費の大幅削減も行いました」と、多くの課題に対しパワーとスピード感をもって改善に取り組む。その結果、2013年~2019年後半までの約5年で、売上は140%増と大きな成長を遂げた。

さらに梅木氏のビジネスへの前進は止まらない。「自社の強みをつくらう」とオリジナル商品の企画・開発にも力を入れ、2019年にはバスグッズを主とした、ネット通販とアメニティグッズ企画製造の別会社『㈱湯屋の手土産』を設立。商品の売り方や切り口を変え、㈱キャリンは企業が企業に対してモノやサービスを提供するBtoB、㈱湯屋の手土産は企業が個人に対してモノやサービスを提供するBtoCをターゲットとし、両社でより効果的・効率的に事業を

回すビジネスモデルを作り上げた。その結果、大型ホテルなどの大口顧客にとどまらず、小ロットを希望する旅館などの顧客からの受注も増え、現在両社とも順調に売上を伸ばしている。

今後について尋ねると「小ロットの受注を全国各地の温泉地にも浸透させていくとともに、自社開発商品のさらなる展開をしていきたいし、やりたいことはたくさんあります」。まだまだ未来への構想は膨らんでおり、今後の飛躍が楽しみだ。



梅木隆憲代表
「自社の強みを生かし、全国各地にもっともっと事業拡大していきたい」と意欲的な梅木氏

大分南部ブロック同友会

[ホテルアメニティグッズ総合卸商社]

株式会社 キャリン

代表取締役社長 梅木 隆憲氏

DATA

〒 大分市上宗方1610-64
☎ 097-542-1404
🕒 8:45~18:00
📅 日曜、祝日※不定期で土曜もあり
📍 あり
<https://carryin.co.jp/>



有限会社 麻生茶舗
代表取締役 麻生 崇良さん



DATA

[小売業]
有限会社 麻生茶舗
〒 由布市湯布院町川上2945-20
☎ 0977-85-2479
🕒 10:00~17:00
📅 土・日曜、祝日 📍 あり
<https://yufucha.stores.jp/>

キラリ新風力 New Wind & Fresh Power ふわり爽風力

地域の持続的発展を担うベストパートナーとして

1974年の創業以来「地域の守り手」として、地元である宇佐市を中心に県北エリアの発展に尽力してきた。主力事業は道路や駐車場、橋梁、ダム、ため池まで、様々な現場に対応する土木工事と、社会のインフラとして人々の暮らしに欠かすことのできない道路網を支える舗装工事。さらに災害発生時や鳥インフルエンザの流行といった有事の際には、県との協定に基づき迅速に復旧作業を行なう。このように幅広い事業を手掛ける中で、『大弓建設』が大切にしているのは海や山、平野など、変化に富んだ地形を有する宇佐市の魅力を次世代に繋げるための柔軟な対応と高品質な施工。そのため専門的な資格を有するスタッフが多く在籍しており、それぞれが細心の注意を払いながら真摯な姿勢で業務に取り組んでいる。

また2024年4月には労働基準法の改正

日本茶のおいしさと奥深さを広めていきたい

ひと口味わえば心がホッとする、日本人のソウルフードならぬ「ソウルドリンク」の「日本茶」。「麻生茶舗」は、現社長の麻生崇良氏の祖父が湯平地区で茶園業からスタートし、その後、先代である父が湯布院の中心地に日本茶販売の店を構え、今年で創業47年になる。

麻生氏は高校卒業後、福岡県八女市にある日本茶の卸問屋へ就職。約5年間、生産から営業・販売など「お茶のいろは」を学び経験を積んだ。その後、23歳で帰郷し父と一緒に働き、2013年から代表を務めている。時代とともに進む情報化社会の中、仏事の御礼品などの卸売業が主体の事業形態に危惧し、通販やネットを活用した小売業に力を注ぎはじめたが、先代との意見の食い違いもあったという。「日本茶を若い世代にも広めたいという想いで、ネットや店舗販売を軸にしたい自分と、卸売業中心でやってきた父とはケンカもしました。でも

最終的に自分にまかせてくれました」と麻生氏。まず「抹茶ソフトクリーム」や、ネット限定で「抹茶ロールケーキ」の販売を試みたが、思い描く結果にはならず断念。3度目の正直として2017年、由布院駅からほど近い場所に、抹茶ジェラート専門店「telato」をオープンさせた。福岡、鹿児島から仕入れた選りすぐりの茶葉を使ったこだわりのジェラートは、日本茶になじみの薄い若い世代や、海外からの観光客にじわじわと評判を呼び、今では行列ができるほどの人気店へと成長した。さらに2020年には湯の坪街道沿いに、日本茶を使ったドリンクのテイクアウト店「5TOKU」も誕生。コロナ禍での新店舗オープンという逆境を乗り越え、こちらも連日お客さんが絶えない店となった。

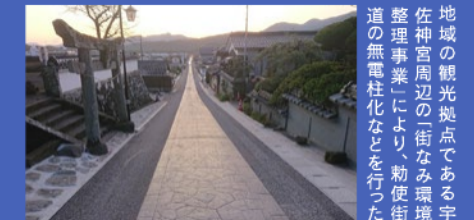
今後の展望として「自分が生まれ育った湯布院を盛り上げていくためにも、日本茶にまつわる新しい業態の店も展開したい」とチャレンジは続いている。

により、時間外労働の罰則付き上限規制の適用が建設業界にスタート。この変革の背景には就業者の高齢化や若手就業者の減少など、業界が長年抱えてきた課題を解決し、新しい時代に即した労働環境の構築があるという。よって同社でも働く環境の整備を進めており、ICTの活用による業務効率化など、最先端技術の導入にも積極的に挑戦している。しかしどんなに技術が発展を遂げても、円滑な工事を進めていくためには地元の人々とのコミュニケーションが不可欠であると大弓氏は話す。土木・舗装工事は近隣に暮らす人々の安心かつ便利な生活を叶えるために欠かさないが、生活道路の通行止めや騒音といった一時的な不便を生む。そのため普段から近隣の人々の声に耳を傾け、関係性をしっかりと築いていくことがとても大切だ。

「これからも地域と共に歩み、恩返しをしていきたい」と語る大弓代表。生まれ育った故郷でもあるこの地への思いを胸に、さらなる地域貢献を誓う。



株式会社 大弓建設
代表取締役 大弓 顕さん

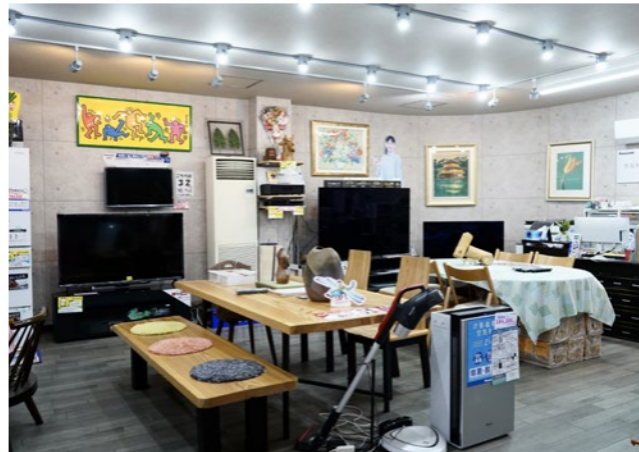


DATA

[建設業]
株式会社 大弓建設
〒 宇佐市院内町二日市194-1
☎ 0978-42-6327
🕒 8:00~17:00
📅 日曜、第2・4土曜
📍 あり
<https://oyumikensetsu.jp>

地域の観光拠点である宇佐市周辺の「街なみ環境整理事業」により、歩道街の無電柱化などを行った

電化製品小売業 **有限会社 徳田電気店**



細やかなサービスはもちろん、地域密着店ならではのネットワークを使って多様な困りごとの解決に取り組む

地域の人々の安心・快適な暮らしを支える

人々の暮らしを変える画期的な家電製品が、次々と登場した1950年代。豊かさや憧れの象徴として多くの国民がそれらの道具に目を輝かせていた時代から、「まちの電気屋さん」として地域と向き合い続けてきた。家電量販店の圧倒的な量と価格攻勢に負けず、創業69年目に突入した経営の根幹にあるのは「地域密着店」であることの誇り。製品を売るだけでなく、長く有効に利用するためのサポートから修理、住まいのリフォームまで、電気や水道工事の国家資格を保持するスタッフが熟練の技術を駆使し、顧客の快適な生活を応援する。さらに家電製品のお得な情報や選び方、暮らしの悩みごとを店頭で気軽に相談できるフェアを年4回開催。日頃から顧客との接点を多くもち、対話を重ねることで隠された需要を見出し、より良いサービスの提供に努めている。



土地家屋調査士事務所 **玉井哲三土地家屋調査士事務所**



平成11年に現事務所へ移転。「継続は力なり」をモットーに、奥様と二人三脚で事業を営む

正確・誠実さを貫く「登記」の専門家

戸建て住宅やアパート、ビルなどの不動産に必要な登記の手続きをはじめ、土地の境界線を明確にする調査・測量を行う「土地家屋調査士」。代表の玉井哲三氏は20~30代は通信関連の仕事をしてきたが、「長い人生、何か違う仕事をしてみたい」と41歳で土地家屋調査士になることを決意。働きながら資格試験を受けるため学校に通い猛勉強し、2度の資格試験にチャレンジの末、見事合格。数年間、市内の測量会社に勤務したのち、平成9年に自身の事務所を設立した。「登記簿は人間でいう、戸籍のようなもの。トラブルを防ぎ、安心して生活するうえで大事な書面です。だからこそミスなく正確な登記簿を作成するために、細心の注意を払っています」と玉井氏。70歳を迎えた今も、この道のエキスパートとして培った経験と厚い信頼のもと、現場での活躍は続いている。



電化製品販売・飲食宿泊業 **cafeじゃあーち(清成電機)**



昭和の面影が残る古民家風のカフェ。草木染インストラクターでもある瑞穂さんが教えてくれる草木染体験は要予約

草木染体験や民泊も可能な心和む古民家カフェ

かつては多くの商店が軒を連ねていた武蔵町の古市商店街。その一角で60年以上前から続く「清成電機」の代表・清成昭則氏の奥様・瑞穂さんが、建物1階部分をリフォームし、カフェ「じゃあーち」を営む。実は当初、瑞穂さんがやりたかったのは大好きな草木染の教室。しかし「昔は活気があったこの地域が、少しでも元気になるために、誰もが集まる場所にしよう」と考え、カフェを開くことを決めた。店では地元の食材をふんだんに使った、おばんざい風のランチや、チーズケーキ、アップルパイなど手づくりのスイーツなどが楽しめる。またカフェに隣接する空間は、レンタルスペースとしての利用もできるほか、2階では民泊スタイルの宿泊事業も行う。「今後は様々なイベントや教室なども行っていきたいですね」。静かな商店街のカフェは今日も優しい笑顔が集い穏やかな時が流れる。



管工事業 **株式会社 賀来設備**



「緑の下の力持ち」的な役割を担い、様々な現場で快適な生活空間の整備に日々取り組むスタッフたち

快適な暮らしを支える仕事を次世代に伝えたい

給排水や冷暖房、トイレなどの衛生設備、上下水道など生活に欠かせないライフラインに関する設備を設置する管工事。安部正憲社長の父が創業し、50年経った今も丁寧で確実な仕事への姿勢は変わらず、大分市上下水道局の公共工事をメインに企業や学校、一般住宅と幅広い管工事業を請け負っている。「仕上がりは表には見えにくい仕事ですが、暮らしを支えるインフラの整備を担う価値の高い仕事です。だからこそ次の世代をしっかりと育てていきたい」と、自身が加盟する「大分市管工事協同組合」では理事を務め、組合員とともに若い人に向け、管工事の仕事を紹介するパンフレットを作成。県内の高校などへ出向き仕事の魅力や、やりがいを伝える活動を行う。また社員のスキルアップのために資格取得のサポートなども行っており、担い手不足解消や人材育成にも積極的に取り組んでいる。



養豚業 **株式会社 ビリーフ**



豚肉は玖珠町の小中学校で使用され地産地消にも貢献。その美味しさはクチコミで広がり個人からの注文も多い

養豚への熱い想いで地域の食を支える

養豚業は、豚の交配から子豚の肥育までを行う一貫経営が主流の中、業界でも珍しい肥育のみの養豚を行う。上野信好社長は大学卒業後、東京で畜産関係の大手企業に勤めていたが、幼い頃から描いていた「養豚の仕事をする」という夢を叶えるべく、一念発起し29歳で生まれ育った玖珠町へUターン。養豚業を営んでいた父のもとで2年間経験を積み、平成21年に独立した。1800頭の豚の肥育で大切にしていることは、豚にストレスを与えないこと。「豚舎の衛生面や温度管理ひとつで、豚の表情や体調も日々変わります。自然豊かな良い環境でストレスなく育てることは、肉質を左右する重要なこと」と養豚への情熱を語る。現在は屠畜場への出荷がメインで、小売りは地元の学校給食と個人販売のみだが、今後ハムやソーセージの加工品の生産・販売のビジネスも計画中だ。



不動産業 **株式会社 OYC**



古い物件をリフォームし活用することも得意。また今後、戸建てを中心に買取も強化していきたいとのこと

若きチカラで不動産の可能性に挑む

大分市光吉を中心に、大分市・別府市近郊の不動産の賃貸・売買物件の仲介業をはじめ、リフォームや管理業を手がける。代表の工藤雅博氏は大学卒業後、建築資材の会社に勤務。営業マンとして、お客様目線で商品やサービスを提供するスキルを身につけたのち平成28年、27歳で祖父の代から続く家業を継承。契約ごとの多い不動産業は、まだまだ書面や印鑑文化が主流の中、スマホやパソコンで重要事項説明や契約が行える「IT住設」を導入し、時代に合わせた仕組みをいち早く構築しているのも、若き経営者ならではの。「スタッフが柔軟に業務を行ってくれているので私自身は今後、自社の強みを軸に新たな事業開拓を積極的にしていきたい」と、現在「NPO法人空き家サポート大分」に加盟。増え続ける空き家問題を解消する取り組みにも積極的に参加している。

